

大会日程と公開授業・分科会

	8:30 9:00	10:00	11:30 11:45	12:30 13:30	14:20 14:35	16:10	16:30
受付	開会式 オリエンテーション (体育館)	記念講演 (体育館)	小学校授業 (各授業教室等)	昼食	中学校授業 (各授業教室等)	分科会 (各分科会場)	閉会式 (テレビ放送) (各分科会場)
	(60分)	(90分)	(45分)		(50分)	(95分)	(20分)

公開授業

【小学校】

	学年	単元名	授業者
生活	2年	みんなであそぼうフェスティバル	南里真奈美 (札幌市立平岸小学校)
中学年	4年	交通事故を防ぐ	入江 夏未 (札幌市立平岸小学校)
高学年	5年	自然を生かしたくらし	大塚 晶紀 (札幌市立平岸小学校)

【中学校】

分野	学年	単元名	授業者
地理	1年	世界と日本の人口	吉井 恵洋 (札幌市立前田中学校)
歴史	2年	討幕運動と民衆のねがい	村上 志行 (札幌市立上篠路中学校)

分 科 会

【小学校分科会】

1) 生活科

	提言者	司会者	記録者	助 言 者	運営委員
生活科部会	細田依公子 (八軒北小)	寺田 誠治 (幌南小)	和田 香織 (宮の森小)	大谷 周子 (日高教育局指導主事) 渋谷 一典 (札幌市教育委員会指導主事) 山本 豊 (札幌市立山鼻小学校教頭) 井田 宏美 (札幌市立八軒西小学校教頭)	源 裕美子 (北陽小)

2) 社会科

	提言者	司会者	記録者	助 言 者	運営委員
中学年部会	横澤 寛 (大谷地小)	佐藤 巧 (栄 小)	岡田 清志 (西岡小)	千代 隆志 (道立教育研究所研究研修主事) 附田 裕哉 (札幌市教育委員会指導主事) 森 直樹 (札幌市立東白石小学校長)	小森 広幸 (幌東小)
高学年部会	細田 裕也 (南郷小)	岩山 明 (元町小)	木村 瑛 (元町北小)	伊藤 伸一 (道教育庁学校教育局指導主事) 末原 恵蔵 (札幌市教育センター指導主事) 野口 英雄 (札幌市立栄小学校教頭)	小林 俊晴 (真駒内曙小)

【中学校分科会】

	提言者	司会者	記録者	助 言 者	運営委員
地 理	地理的分野 研究部	黒澤 研一 (藤野中)	谷口 達夫 (前田中)	赤塚 恒太 (オホーツク教育局指導主事) 工藤 真嗣 (札幌市教育委員会指導主事) 吉呑 正美 (札幌市立青葉中学校長)	澤田 祥一 (篠路中)
歴 史	歴史的分野 研究部	菅谷 昌弘 (附属札幌中)	遠山 博雅 (米里中)	長浦 紀華 (十勝教育局指導主事) 一木 一 (札幌市立栄町中学校長)	伊達 峰史 (屯田中央中)

2年 地理的分野学習活動案

生徒 札幌市立前田中学校 2年4組 33名
指導者 教諭 吉井 恵 洋

1. 単元名

「さまざまな面から見た日本」

2. 単元展開の視点

新指導要領において、「さまざまな面から見た日本」は世界的視野や日本全体の視野から見た日本の地域的特色を取り上げ、我が国の国土の特色をさまざまな面から大観させることを目標としている。さらにこの単元では、「世界のさまざまな地域」で学習したことを踏まえ、世界的視野から日本を一つの地域として取り扱ったり、日本全体の視野から大まかな国内の地域差に着目させたりすることによって、我が国の国土の特色を理解させることを主なねらいとしている。

さらに今回授業を行う題材「人口」については、我が国の地域的特色を人口の面から理解させることを主なねらいとしている。それは、我が国は世界で10番目の人口を誇る1億人を超える数少ない国であること、人口集中地域の一つ出ること、世界に類を見ない速さで少子化・高齢化が進んだことなどから、世界的視野から日本の人口と人口密度、少子高齢化の課題を理解させるのに最適であること。また、世界的視野では人口集中地域ではあるが、日本の人口分布を見ると不均衡な分布がみられ、過密・過疎の問題点が浮き彫りになることが日本の地域的特色を大観させることに向いていると言えるからである。

この単元を展開していく上で、まずは生徒が既に学んできた知識を土台として、学習活動を展開することに十分留意する。また、私たちの日常生活と関連付けることで、生徒各々が問題を実感することにも十分留意したい。

例えば、1年生で学習した「身近な地域の調査」では「地形図」において、実際に住む地域を例に挙げ、人口の集中する地域の要因について学習した。さらに、「都道府県の調査」では東京都において都市問題の視点から過密について学習した。また、北

海道において人口の流出による過疎の問題について学習した。地形図の学習において、本校の前田地区を取り上げ、日常の生活に当てはめて考えることは比較的容易であった。しかし、少子化・高齢化については漠然とした理解であり、過密・過疎にいたっては尚更である。

そこで、資料を用いて、より具体的な学習を設定してみた。これまでの学習でも資料の読み取りには力を入れてきた。読み取った資料に基づいて、個人で考えをもち、グループで交流する生徒主体の学習活動を通して、思考の変化が見える活動や、言語活動力を生かす学習展開に重きを置くこととする。

3. 単元の目標

- (1) 日本の「自然環境」「生活と文化」「人口」「産業と資源」「地域間の結びつき」について、世界的視野から日本を一つの地域として見た日本の地域的特色と日本全体の視野から見た国内の諸地域の特色をとらえる活動を通して、わが国の国土の特色を大観させる。
- (2) 各項目についての国土の特色を、地域間の比較や関連づけの中から類似性や傾向性に着目して明らかにするとともに、地域的特色を明らかにする調べ方や学び方を身に付けさせる。
- (3) 「生活と文化」「人口」「地域間の結びつき」については、国土の特色を事例地域を通して具体的に考察させる。

【単元の構成】

世界と日本の人口 6時間扱い

- ① 世界の人口分布とその推移…………… 1時間
- ② 日本の人口と人口問題…………… 1時間
- ③ かたよる日本の人口分布…………… 1時間
- ④ 過密の問題とその取り組み…………… 1時間
- ⑤ 過疎の問題とその取り組み…………… 1時間
- ⑥ 人口問題のまとめ…………… 1時間

(本時：6時間目)

4. 本時の授業構成

(1) 題材

「世界と日本の人口」
～人口問題のまとめ 前田地区から考える～

(2) 本時の目標・評価

- ・グループでのまとめ、全体での発表に積極的に参加し、地区（前田・手稲区）の人口に関わる問題への興味・関心を高めている。

（関心・意欲・態度）

- ・まとめ、発表を通して、前田地区（手稲区、札幌市）の人口に関わる問題とその解決の方法を整理して考えることができる。

（思考・判断）

- ・言語活動を通して、自分たちがまとめた考えを発表し、互いに聞き合い、検証することができる。

（技能・表現）

- ・これまで学習をしてきた人口に関するさまざまな問題点は自分たちの住む地域も無関係ではないことを、さまざまな事例を通して理解している。

（知識・理解）

(3) 本時の授業展開の視点

前半の「自分たちのグループの発表内容を考えよう」の段階は、これまでに世界と日本の人口について学んできたことが、自分たちの住む地域にも無関係ではないことを再確認するものである。内容強化である社会科の学習では、どうしても生徒は教科書に書いてあることが大事なことであるという意識をもつ。大事というのは、テストに出る重要語句であるということである。しかし、少子化や高齢化、過密・過疎の問題は自分たちの住む地域にも直接関わりがあることを、資料に基づいて確認することで、自分たちの問題であることも意識することになる。

言語活動力を生かすためには、交流の場、つまり表現活動の場の工夫が大切である。「自分たちのグループの発表内容を考えよう」では資料をきちんと読み取り、資料に基づいて考察し、グループ内で自分の考えを発表し、お互いの考えを聞き合うことで、グループの考えをまとめていく。そして、分かりやすく、学級全体に伝わる発表方法を考える。（言語活動1）

「前田地区の人口問題とは？」ではほかのグループ

の発表を聴いて、生徒は自分なりの見方、考え方を交流していく。（言語活動2）そこで、自他の見方、考え方の類似点、差異を認識していく。自他の比較を通して他の見方、考え方を尊重しながら、自分なりの見方、考え方を再構成していく。（言語活動3）つまり、個と集団の学びが融合していくのである。再構成したものをもとに、自分とのかかわりの中で自分はどのように考えればよいのかを自己決定（※前次研究）し続けていくのである。

(4) 本時の資料

ワークシート、発表掲示物、その他

(5) 生徒の実態

学習全般において意欲的に取り組む生徒が多い。しかし、意欲的といってもそれは受身の学習姿勢であり、与えられた課題に対して、ひとつの答えを個人で追究していくタイプの生徒が多い。

2年間副担任として所属してきた学年の生徒である。1年生のときから、資料に基づいた個人の意見や考えを全体に発表させる授業を比較的多く行ってきた。地理的分野においては、地形図の読み取りや用途に応じたグラフ・表の使い方を地域の規模に応じた調査でまとめる学習を行った。2年生になってからは、雨温図の作成や読み取りを学習してきた。

社会科ではあまりグループ学習の機会がなかったことで、グループを用いた授業には戸惑う生徒もいるかもしれない。しかし、個人の考えからグループの考え、そして全体の考えと発展していく授業の流れは、グループで学習することの効用感を味わい、言語活動力を高める学習展開になると考えている。

そして今回の取り組みが、自分たちが学習活動の中心であることを再確認し、受身の学習姿勢からの転換を図る端緒となればよいと考えている。

2年生の後半では家族・親族等の身近な人々からの聞き書きをする歴史的な分野の活動を行う予定である。ここで交流する活動を取り入れることで、今回の学習が生きてきたか検証することとなる。

5. 本題材の前時までの展開

	学習内容	学習活動	資料・留意点
1	「世界の人口分布とその推移」 かたよった人口分布 急激な人口増加	<ul style="list-style-type: none"> 世界の人口の変化に関心を持ち、総人口が最近の20～30年で急増している様子とその要因、問題点について理解する。 分布図やグラフから、人口は、都市や工業の発達した先進工業国、アジアの稲作地域に集中し、不均等な分布をしていることを読み取るとともにその要因について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的分野との関連 帯グラフ、折れ線グラフの確認
2	「日本の人口と人口問題」 日本の人口 人口構成とその変化 高齢社会と少子化	<ul style="list-style-type: none"> 日本の人口に関連する諸問題に関心を持ち、日本は、世界の中で人口が多く、人口密度が高い国の一つであることをつかむ。 世界の国々の人口構成はその国情を反映してさまざまであるが、日本は少子化、高齢化が進み、高齢者福祉などの課題に直面していることに気づく 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的分野との関連 人口ピラミッドの見方、作成
3	「かたよる日本の人口分布」 人口分布の特徴 大都市への人口移動	<ul style="list-style-type: none"> 日本では、平野部への人口集中が目立つ一方、山間部が人口希薄の過疎地域となっていることをつかむ。 都市への人口集中の要因について、産業、交通、文化などに関連させて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の山地と海岸、川と平野・円グラフの確認、作成
4	「過密の問題とその取り組み」 日本の過密地域 大阪市と過密の問題	<ul style="list-style-type: none"> 日本の大都市は、共通して過密地域になっており、交通渋滞や混雑など深刻な問題を抱えていることを理解する。 大阪市を例に、大都市が抱える過密の問題とその解決策について、分布図や景観写真などさまざまな資料をもとに考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 札幌市の現状と確認
5	「過疎の問題とその取り組み」 過疎の問題と 町おこし・村おこし 町おこしに取り組む檮原町	<ul style="list-style-type: none"> 過疎地域に関するさまざまな現状を、分布図や人口ピラミッドから読み取り、過疎地域が生じる要因と抱える課題を考える。 高知県檮原町を例に、過疎対策としての町おこし・村おこしの様子や人々の苦労、努力について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 道内の過疎地域との確認

6. 本時の展開

過程	学習内容	学習活動	資料・留意点
把握	本時の流れの確認	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の確認をする。 ・本時の流れの確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート
追究	言語活動1	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに基づいた資料をまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分たちのグループの発表内容を考えよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ○資料をきちんと読み取り、資料に基づいて考察する。 ○グループ内で自分の考えを発表し、お互いの考えを聞き合うことで、グループの考えをまとめていく。 ○分かりやすく、学級全体に伝わる発表方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表は班長 ・メモを取りながら、きちんと聴く
	言語活動2	<div style="border: 3px double black; padding: 5px; text-align: center;">前田地区（手稲区）の人口問題とは？</div> <ul style="list-style-type: none"> ○「少子化」「高齢化」「過密」「過疎」「そのほか」などのテーマに沿って、グループごとに考えを全体に発表する。 ○自分たちと違う考えに対する質問や意見を交流する。 	
	言語活動3	<ul style="list-style-type: none"> ○発表された内容で、自分が一番問題がある（深刻である）と考えるグループの発表掲示物にネームカードを貼る。 ・なぜそれを選んだのかを明確に発言できるようにする。 	
整理 発展	次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えと、その理由をワークシートに記入する。 ○数人の発表を聞き、自分の考えと比較する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師のまとめ

7. 本時の板書例

前田地区の人口問題	特にこのあたりが問題だ
少子化	過密
高齢化	過疎
そのほか	生徒のネームプレートが貼られている

2年 歴史的分野学習活動案

生徒 札幌市立上篠路中学校 2年3組 37名
指導者 教諭 村上志行

1. 単元名

第5章 近代日本の歩みと国際社会
5 「討幕運動と民衆の願い」

2. 単元展開の視点

現在、株価の下落や急速な円高が大きな問題となり、政府の介入による経済の立て直しが求められるなど、日本経済は深刻な状況に置かれている。一方、現代の世界の工場となった中国や韓国など、急速な成長を見せる国々が世界の市場へと進出し、世界経済における日本の国際的地位が、かつてのような勢いを失ってきているのも事実である。

今回授業で取り上げる江戸時代末期は、ペリー来航をきっかけとした開国によって、約200年にわたって続けられてきた鎖国が終わるとともに、欧米諸国との通商の始まりによって、日本経済や社会が大きく変わっていく時期である。教科書の上では、幕府と尊王攘夷運動との関係を中心に歴史の流れが語られていく。しかしながら、こうした幕末の大きな動きには欧米諸国における市民革命や産業革命後のアジアへの植民地拡大という欧米諸国を中心とした世界の動きが密接に関連している。また、過去も現在も社会全体を支え、大きく動かしているのは庶民であり、幕末の動きと庶民のかかわりについて考えることも重要である。

こうした観点から、開国後に結ばれた通商条約による貿易が国内産業を圧迫し、物価の上昇をもたらすなど、開国後の貿易をきっかけとする経済の混乱に対し、新しい社会を求めた庶民の存在が攘夷の思想や後の倒幕を支える土台となったという庶民の視点での歴史を重視していきたい。

現代社会においても、経済の問題は一部の企業や政治家、国家の責任であるかのようにとらえられがちである。しかし、経済に限らず、社会全体の問題の多くは一般の国民（庶民）の問題である。歴史の学習においては歴史の大きな流れを大観することが

重要であるが、時代を動かした人物を中心とした歴史だけでなく、庶民の視点から見た歴史など、様々な立場や視点から多面的・多角的に歴史を学ぶことにより、現代社会においても一人一人が社会の諸問題について考え、行動していくことで、よりよい社会が築かれていくという点に気付かせることで、公民的分野における主権者としての国民のありかたの学習に繋がる授業を展開していきたい。

3. 単元の目標

- (1) 江戸幕末の日本の変化に興味をもち、欧米諸国との関係や幕府、庶民などの様々な立場や視点から、幕末の日本の動きについて学ぼうとすることができる。
(関心・意欲・態度)
- (2) 産業革命後に欧米諸国が原料の供給地と市場を求めアジアに植民地を拡大し、日本が開国し通商をはじめたことと、新しい時代を求める人々の動きや幕府の滅亡との関連性について考えることができる。
(社会的思考・判断)
- (3) 教科書などの資料から、幕末の社会の様子について読み取り、考察した内容について、根拠を明確にしながら表現することができる。
(資料活用・表現)
- (4) 市民革命や産業革命による欧米諸国の大きな変化がアジアにもたらした影響や開国による日本と欧米諸国の関係および幕末から明治にかけての日本の変化の様子について理解することができた。
(知識・理解)

【単元構成】（6時間扱い）

第5章 近代日本の歩みと国際社会

第1節 欧米諸国の衝撃と日本

- 1 自由と平等を求めた市民革命…………… 1時間
- 2 世界の生活をかえた産業革命…………… 1時間
- 3 欧米諸国の世界進出…………… 1時間
- 4 ペリー来航から開国へ…………… 1時間
- 5 討幕運動と民衆の願い…………… 3時間

(本時3/3)

4. 本時の授業構成

(1) 題材

討幕運動と民衆の願い（本時 2 / 2 時間）

(2) 本時の目標

関心・意欲・態度 開国後の人々の気持ちに関心をもち、当時の人々の立場に立って社会の状況について考えることができる。
社会的思考・判断 開国が国内の政治や社会生活に及ぼした影響をグラフなどの資料から多面的・多角的に考えることができる。
資料活用・表現 グラフなどの資料を活用して、開国後の日本の経済や社会の様子を読み取り、社会がどのような混乱状況となったかを考えることができる。
知識・理解 外国との貿易の始まりが国内の政治や社会生活に及ぼした影響と、そうした社会の混乱が新しい社会を求める人々の動きにつながっていたことを理解できる。

(3) 本時の授業展開の視点

本時は江戸幕末の経済・社会の状況について取り上げている。前時までの学習ではペリー来航から大政奉還までの歴史の大きな流れを大観させ、幕府や討幕派の視点から、歴史的事象の原因と結果をとらえさせ、本時において、庶民の視点から幕末の経済や社会の様子を考えさせていきたい。こうした中で、現代社会における政治・経済・社会の問題についての興味・関心をもつとともに、主体的にこうした問題について考える心をもたせていきたい。

言語活動としては、新学習指導要領における「解釈→説明→論述」を軸に授業を展開していくが、解釈のもととなる事実認識の段階として、「資料の読み取り」を取り入れていく。

こうした言語活動を軸にした授業展開の中で、今後重視されていくのが「説明力」であると考えられる。思考力・判断力・表現力等を育てる上で、従来の「理解の社会科」から「説明の社会科」への転換が求められる中で、説明する力を身に付けることが大切である。そこで、本時においては、言語活動力として「資料を的確に読み取り、読み取った情報から

解釈し、根拠を明確に説明・表現する力」を身に付けさせる授業を展開していきたい。

(4) 本時の資料

[資料1] 貿易品目・貿易額

[資料2] 金貨流出のカラクリ

[資料3] 物価の高騰

※「グラフィックワイド歴史（とうほう）」

(5) 生徒の実態

授業については、私語もなく指示された活動や課題に集中して取り組むなど、比較的前向きに社会科学の学習に取り組む生徒が多い。一方で、授業での説明されている内容（言葉）が理解できていなかったり、指示された活動が理解できずにただ座ったままになってしまったりする生徒も見られる。教科書を読んだり、話を聞いて理解する力や板書された事項をノートに書き写したりするといった、基本的な言語能力が十分に身に付いていない生徒も多いため、入学当初より、教科書読みと重要語句のチェック、重要語句の書き取り練習を予習として取り入れてきた。事前に授業に出てくる語句を知ることによって、板書を写すスピードが早くなり、話を聞くことに集中できたり、授業内容そのものの理解が高まったりするといった効果が見られている。しかしながら、話を聞く・書く・理解するといった力は身に付いているものの、考える・自分の意見を表現するといった点では自分の考えに自信がもてずに消極的になってしまったり、他の人の意見に依存してしまったりする姿が多く見られる。

個人学習（自力解決の場合）でノートに書かせる活動では、時間はかかるものの、自分で考え書いてみようとして一生懸命に取り組むが、発表に対しては自信が持てないため、本時においては、じっくりと考え、自分の考えや意見をもつとともに、他者と交流する中で、さらに考えを深めさせていきたいと考える。

また、形成的評価を指導・支援に反映させ、学習状況・発達段階に応じた指導・支援を行うことで、自分にも「できる」「わかる」という自己有用感を持たせ、言語活動にも積極的に取り組んでみようという学習意欲の向上にもつなげていきたい。

さらに本時ではグラフ資料からの読み取った事実から、当時の生活の様子について考察し、歴史の流れの原因と結果を考えるとともに、現代社会における経済、社会問題に対して自分なりの考えをもたせ、社会認識の力を育てていきたい。

5. 前時の展開 (1/3) <歴史の大きな流れをつかみ知識の習得をねらいとした授業>

学習過程	学習内容	学習活動 ●教師の指導・支援 ○生徒の活動	資料・留意点												
把握	1 江戸幕末の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ●江戸幕末の時代の流れを資料映像で大観する。 <資料>「10min.ボックス」(NHK) ●課題を提示する 	★資料でこれから学習する内容の見通しを立てさせる。												
<学習課題> ペリーの来航によって日本はどのような影響を受けたのだろうか？															
追究	2 日本が結んだ2つの条約 3 不平等条約と日本の国際的地位	<ul style="list-style-type: none"> ●ペリー来航から日米修好通商条約締結までの歴史の流れを説明する。 ●日米和親条約と日米修好通商条約について整理する。 <table border="1" data-bbox="579 925 1193 1155"> <thead> <tr> <th>条約</th> <th>内容</th> <th>開港した港</th> <th>条約締結国</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日米和親条約</td> <td>水・食料・燃料の供給</td> <td>下田(静岡) 函館(北海道)</td> <td>米・蘭・英・露</td> </tr> <tr> <td>日米修好通商条約</td> <td>自由貿易</td> <td>函館・神奈川(横浜)・長崎・新潟・神戸</td> <td>米・蘭・英・仏・露</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ●日米修好通商条約の内容について説明する。 ○日本にとって不平等な条約であることに気付く ○日本にとって不平等な条約であることから、当時の欧米諸国から日本がどのように見られていたか考える。 ・欧米諸国は日本のことを植民地にしようとしていた ・欧米諸国は日本やアジアのことを低く見ていた ・原料の供給地や製品の市場としてみている。 	条約	内容	開港した港	条約締結国	日米和親条約	水・食料・燃料の供給	下田(静岡) 函館(北海道)	米・蘭・英・露	日米修好通商条約	自由貿易	函館・神奈川(横浜)・長崎・新潟・神戸	米・蘭・英・仏・露	[評価]関心・意欲・態度 ★開港した港は地図の中で位置を確認する。 ★日本の国際的地位が低かったことに気付かせる。 ★条約が改正されたのが、1911であることから、今後の日本が不平等条約の改正に向けて欧米諸国と肩を並べる国を目指したことを理解させる。
条約	内容	開港した港	条約締結国												
日米和親条約	水・食料・燃料の供給	下田(静岡) 函館(北海道)	米・蘭・英・露												
日米修好通商条約	自由貿易	函館・神奈川(横浜)・長崎・新潟・神戸	米・蘭・英・仏・露												
整理発展	4 尊王攘夷運動の激化	<ul style="list-style-type: none"> ●尊王攘夷について説明する。 尊王論・天皇を尊ぶ考え 攘夷論・外国人を追い払う考え ●安政の大獄とその報復としての桜田門外の変によって、尊王攘夷運動が過熱していったことを理解させる。 	★討幕運動につながる重要な考え方なので、それぞれの考えがなぜ出てきたのかをしっかりと理解させる。												
<課題の解決> ペリー来航によって開国し、貿易が始まったことで、人々の生活は苦しくなり、大名や武士、公家の間では尊王攘夷の考え方が広まっていった。															
	次回の予告	●課題の提示・次回の予告を行う。													

6. 前時の展開 (2/3) <歴史の大きな流れをつかみ知識の習得をねらいとした授業>

学習過程	学習内容	学習活動 ●教師の指導・支援 ○生徒の活動	資料・留意点												
把握	1 攘夷の失敗と倒幕運動 2 坂本竜馬と薩長同盟	●ペリー来航から尊王攘夷運動までの大きな流れを振り返る ●坂本竜馬の資料(顔写真)を提示する。 「この人物は誰で何をした人でしょう？」 ・坂本竜馬で薩長同盟を結ばせた人 ●もともと対立していた薩摩藩と長州藩が薩長同盟を結んだことにより、幕府が滅亡していった事実を示す。	★なぜ・どうしてそのようになったか根拠を明確にしながら説明させる。 ★既習知識と授業前の予習で薩長同盟の言葉は出てくることが予想される。												
<学習課題> 江戸幕府はどのように滅亡し、新しい政府が誕生していったのだろうか？															
追究	3 下関事件と薩英戦争 4 大政奉還と新政府の誕生	●長州藩と薩摩藩が攘夷から討幕へと向かっていった過程について説明する。 <table border="1" data-bbox="582 786 1193 1099"> <thead> <tr> <th></th> <th>薩摩藩</th> <th>長州藩</th> </tr> <tr> <th></th> <th>公武合体</th> <th>尊皇攘夷</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th>出来事</th> <td>生麦事件(1862) 薩英戦争(1863)</td> <td>下関砲撃事件(1863) 四国連合艦隊の下関砲撃(1864)</td> </tr> <tr> <th>結果</th> <td>イギリス艦隊による鹿児島攻撃に勝敗がつかず和解。開国策に転じる</td> <td>英・米・仏・蘭が陸戦隊を上陸させ、下関砲台を占拠。開国を主張する勢力が台頭</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ■第一次長州征伐(1864) <ul style="list-style-type: none"> ・攘夷を推し進めた長州藩を処罰する命が下る。薩摩藩の西郷隆盛が幕府軍の参謀をつとめ長州藩が降伏 ■薩長同盟(1866) <ul style="list-style-type: none"> ・薩摩藩の西郷隆盛・大久保利通と長州藩の木戸孝允・高杉晋作を土佐藩出身の坂本竜馬が仲介し、同盟を結ぶ。 ■第二次長州征伐(1866) <ul style="list-style-type: none"> ・長州藩が討幕の動きを強めるが、薩摩藩は薩長同盟により出兵せず失敗に終わる。 ●大政奉還から王政復古の大号令による新政府の成立と戊辰戦争による国内の統一の完成までを説明する。		薩摩藩	長州藩		公武合体	尊皇攘夷	出来事	生麦事件(1862) 薩英戦争(1863)	下関砲撃事件(1863) 四国連合艦隊の下関砲撃(1864)	結果	イギリス艦隊による鹿児島攻撃に勝敗がつかず和解。開国策に転じる	英・米・仏・蘭が陸戦隊を上陸させ、下関砲台を占拠。開国を主張する勢力が台頭	★薩英戦争と下関砲撃の出来事と関連させてそれぞれの藩を攘夷から開国へと転じ、討幕へと向かっていったことを理解させる。 ★大政奉還への大きな歴史の流れをつかむことに重点を置き、一つ一つの出来事についての説明が深くなりすぎないように注意する。
	薩摩藩	長州藩													
	公武合体	尊皇攘夷													
出来事	生麦事件(1862) 薩英戦争(1863)	下関砲撃事件(1863) 四国連合艦隊の下関砲撃(1864)													
結果	イギリス艦隊による鹿児島攻撃に勝敗がつかず和解。開国策に転じる	英・米・仏・蘭が陸戦隊を上陸させ、下関砲台を占拠。開国を主張する勢力が台頭													
<課題の解決> 薩英戦争や下関砲撃によって薩摩藩、長州藩が攘夷は不可能と考え、薩長同盟を結び討幕運動を進めたことによって、幕府が大政奉還を行い新政府が誕生した。															
整理発展	5 開国・討幕と人々の思い ◆言語活動1 【個人学習】 (読み取り・解釈) 次回の予告	●資料を提示する(プリント配布+TVを使用) [資料1] 貿易品目・貿易額 [資料2] 金貨流出のグラフ [資料3] 物価の高騰 ○それぞれの資料から読み取ったことをワークシートに記入する。 ●次回の予告を行う。	★それぞれの資料について、簡単に補足する。 ★Cの生徒にはいずれか1つの資料でよいので読み取れるように支援する												

7. 本時の展開 (3/3) <習得した知識の活用を通して、さらに習得を深めることをねらいとした授業>

学習 過程	学習内容	学習活動 ●教師の指導・支援 ○生徒の活動	資料・留意点
把握	1 開国と通商の始まり (前時の振り返り)	<p>●開国による欧米諸国の進出によって社会が混乱し、攘夷という考えが生まれ幕府が倒されたという事実(前時の学習内容)を振り返る。</p> <p>●学習課題を提示する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><学習課題> 開国後の外国との貿易が日本の経済や社会全体にどのような影響を与え、人々はどのような気持ちをもったのだろうか。</p> </div> <p>●学習内容を説明する。</p> <p>①前回の授業で読み取りを行った資料から、江戸幕末の社会や経済の様子を考える。</p> <p>②A～Eの選択肢から、江戸幕末の人々がどのような気持ちだったと思うかを選ぶ。</p> <p>③そのように考えた理由(根拠)を書く。 (①で考えた社会や経済の様子が理由・根拠となる)</p> <p>④4人ずつグループになって当時の人々の気持ちについて話し合う。(なぜそう考えたか理由・根拠を明確にする) ・1人1分ずつ自分の選んだ選択肢とその理由を伝える ・それぞれの考えをもとに話し合いをする。</p> <p>⑤話し合いをもとに、自分の考えをまとめる。</p>	★学習内容と進め方を明確にすることで、見直しをもって学習に取り組めるようにする。
	追究	2 貿易による経済や社会の変化	<p>①江戸幕末の社会や経済の様子について考えさせる。 ○前時に読み取った資料から江戸幕末の社会や経済の様子がどのようなであったかを考える。</p> <p>[資料1] ・生糸や茶の輸出が多い ・毛織物や綿織物の輸入が多い ・輸出額が非常に多い</p> <p>[資料2] ・海外に日本の金や銀が大量に流出している ・国内の金・銀が不足して質の悪い貨幣がつくられている ・質悪貨幣が大量に作られたため、物価が上昇している</p> <p>[資料3] ・物価がどんどん上昇している ・米など生活に必要なものが高くなっている。 ・生糸や茶の生産力を上回る輸出のため品不足になった</p> <p>②江戸幕末の社会に生きる人々がどのような気持ちであったかを選択肢から選ばせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>A 開国によって外国の品物が手に入ってうれしかった。 B 外国の人々に出て行ってもらいたかった。 C 開国を決めた幕府に対して不満をもっていた。 D 幕府ではなく朝廷に政治を行ってもらいたかった。 E これまで通り幕府に政治を行ってもらいたかった。</p> </div> <p>③なぜそのように考えたのか、理由(根拠)を書く。 ※①で考えた社会や経済の様子が理由(根拠)となる。</p> <p>④開国によって、経済や社会の状況がどのようになり、人々がどのような気持ちをもったのかをグループで検討させる。 ○4人1組のグループをつくる。</p>
3 幕末の経済・社会と人々の暮らし		<p>◆言語活動1 [個人学習] (読み取り・解釈)</p> <p>◆言語活動2 [グループ学習] (説明)</p>	

		<p>○1人1分ずつ選んだ選択肢と理由（根拠）を説明する。 ○江戸幕末の社会や経済の様子と当時の人々の気持ちがどうであったかを話し合う。</p> <p>○グループで考えをまとめ、発表する。 ・資料から考えられる経済・社会の様子を根拠として、人々がどのような気持ちだったかをまとめる。</p> <p>[説明の「型」]</p> <p>①「 」の資料から ②「 」といったことがわかり ③当時の経済や社会が「 」な状況であったと考えられます。 ④そのため、こうした経済や社会の状況を人々は「 」と感じていたのではないかと思います。</p> <p>●グループでまとめた内容を発表させる ○根拠となった資料や読み取りを明確にしながら説明する</p>	<p>★話し合いでうまく考えがまとまらないグループには、説明の「型」をヒントとして示す。</p> <p>★根拠となる資料や資料の読み取りを明確にする。</p> <p>★考えの根拠が不明瞭な場合などは再度やり直しをさせる。</p>
整理 発展	<p>4 幕末を整理しよう ◆言語活動3 [個人学習] (論述)</p> <p>5 学習のまとめ</p>	<p>○グループの発表を聞いて、自分の考えをまとめる。 ※最初に選んだ選択肢の記号から変わっても構わない。</p> <p>●薩摩藩や長州藩などの武士たちが攘夷や討幕を目指した一方で農民や庶民も新しい社会を求めたことを確認する。</p>	<p>★グループの話し合いによって生徒の考えが変容したかを見取る。</p> <p>★武士や農民、庶民のそれぞれの立場の考えを整理する。</p>
	<p>次回の予告</p>	<p>●課題の提示・次回の予告を行う。</p>	

<課題の解決>
 開国後の貿易の始まりによって、物価の上昇などの経済の混乱が起こり、攘夷や新しい社会を求める気持ちが高まっていった。

<指導案の改善点>

- ・苦手な生徒も参加できるようにする。
- ・生徒の変容が見えるようにする（授業前後での評価がしやすい状況をつくる）
→選択形式で自分の意見をもって話し合いに参加する。
→授業の最初と最後で考えが変化したかを確認する。
- ・話し合いのグループは少人数にする。
→生活班ではなく、4人グループで話し合いを行う（核になる生徒が入っていること）
※英語科の授業で行っている4人グループを活用する。
- ・国語科で身に付けた技能（ディベートでの話し合いの手順）を活用する。
→1分間で自分の考えを発表してから話し合いを始める。
- ・何をするのかを的確に指示してから活動させる。
→ワークシートとテレビ画面を使って学習内容・進め方を提示する。